

福島への被災地視察ツアーを実施

●日程 2014年
9月13日(土)～14日(日)

石川県生協連では、原発事故の影響が続く福島県へのスタディツアーを実施し、福島のことをしっかりと見聞きし現地の方と交流する中で今後の支援について考える機会としました。

会員生協より17名(コープいしかわ11名、石川県学校生協1名、コープ北陸1名、金沢医療生協1名、県連3名)が参加しました。

▼初日 講演会

13日(土)の朝7時45分にコープいしかわ古府センターを出発し、午後3時30分に福島県いわき市の古滝屋に到着しました。4時から福島県生活協同組合連合会専務理事佐藤一夫氏から「東日本大震災から3年を経過してふくしまの今…」と題してご講演いただきました。佐藤専務理事は「福島県での間接死が直接死を上回ったことが、原発事故の問題の深刻さを現している。原発事故は終わっていない。また、外で遊べない福島の子どもたちの『福島の子ども保養プロジェクト(コヨット)』の取り組みやこどもだけでなく親・保護者への心のケ

アも必要になっている。全国生協の支援で福島の農産物への徹底した『土壤スクリーニングプロジェクト』の実施で、風評被害を払拭する取り組みを行っている」など福島の実状について話していただきました。

▼2日目 スタディツアー

14日(日)はNPO法人「ふよう土2100」のSTUDY TOURに参加。里見喜生理事長の事前説明を受け、大澤康泰副理事長の案内で広野町から楢葉町を経由して富岡町(原発20キロ圏内)へ出発。車中からは田畑に積まれた汚染廃棄物を入れた袋の山が見られ、人影のない居住制限区域を通過しました。JR富岡駅ではバスを降りて見学し、東日本大震災から時間が止まったままの街、音のない街を実感しました。

次にNPO法人「ザ・ピープル」吉田恵美子理事長の案内でオーガニックコットン農場を見学しました。ザ・ピープルでは東日本大震災と原発事故後、福島県の農作物が敬遠される中、食用でなく塩害に強い綿を有機栽培で育て、収穫されたコットンをコットンベイブ、Tシャツなどに製品化する一連の取り組みを進めています。

最後に久之浜復興商店街「浜風商店街」を訪問しました。いわき市久之浜第一小学校敷地内に建てられた仮設の商店街で、食堂、魚屋、理容室、ふれあい情報館などが入っており、地元の方々の復興に向けた取り組みが進められています。



福島生協連佐藤専務の講演



放置されたままの車 富岡駅前



壊れたままの富岡駅前の商店街



スタディツアーの説明をされる「ふよう土2100」里見理事長と大澤副理事長



「ザ・ピープル」が取り組むオーガニックコットン農場で吉田理事長を囲んで



いわき市久之浜第一小学校敷地内に建てられた浜風商店街

参加者の感想・私たちにできる支援

- ★子どもたちが外で遊べないことや、農作物の風評被害が酷いことなど、現地の方の切実な話をお聞きし、自分ができることは何か？考えさせられました。この福島の実実を多くの人に伝えるとともに、生協として、個人としての支援活動をしていきます。
- ★現地を視察して、原発事故と被曝の実態、住民のストレス、苦悩を感じることができた。福島の実状をできるだけリアルに分かりやすく組合員に知らせ、様々な意見をいただくことが第歩であると感じた。
- ★現地で撮った写真を家族に見せて話合っした。
- ★最大の支援は、福島をいつも忘れずに注目すること。
- ★福島県産の米は抜き取りサンプル調査ではなく全袋放射能検査を行っており、福島県発刊の新聞に検査結果が掲載されている。徹底した検査と情報公開は風評被害払拭に繋がる。
- ★福島県産の商品を買うことで支援してきたい。
- ★福島新聞には地区別放射線量が株価のようになり毎日掲載されている。関心度の違いが著しい。何よりの支援は「福島への理解」だと思つた。
- ★福島県生協連・全国の生協、民間団体が協力して実施していることも保養プロジェクトの継続が必要(石川県でも)。
- ★直接見て、事実を知ることが大切だと思つた。
- ★協同組合の連携を強めることが大事だと思つた。
- ★長期間かかる福島の被災者支援にしっかりと取り組んでいきたい。

会員生協の活動

コープいしかわ→金沢医療生協→金沢大学生協→石川高専生協→学校生協 会員生協施設訪問ツアーを開催

●日程 2014年11月28日(金)

会員生協の施設訪問ツアーには14名が参加しました。石川県からは生協の所管課である県民生活課に加え、長寿社会課の見守り担当の職員も参加されました。

昨年から続いて小型バスを利用しての訪問で、車中で訪問する生協の見どころ・ポイント、訪問しての感想などの交流を行いました。訪問先はコープいしかわ物流センター(白山市行町)、金沢医療生協(金沢市天神町)、金沢大学生協(金沢市角間町)、石川高専生協(津幡町)、石川県学校生協(津幡町)で、各生協の概要、事業などの説明を受け、施設を見学しました。

最後にコープいしかわの店舗「コープたまぼこ移動店舗」「コボ丸便」の車内を見学しました。(移動店舗「コボ丸便」は2014年10月27日より運行開始)



コープいしかわ物流センター内で



金大生協の会議室で



金沢医療生協けんろく診療所前



石川高専生協の売店



石川県学校生協の会議室で



コープたまぼこの移動店舗「コボ丸便」

参加者感想

●今回のツアーに参加させていただき、事業報告書等の紙面からだけでは感じることのできない事業活動の様子を、直接見学することができ、大変有意義な機会となりました。どの生活協同組合も、高齢化等、現代の問題と向き合い、組合員による組合員のための活動を行っていくため、役職員の皆様が、日々ご尽力されていることを実感できました。ツアーに誘っていただきありがとうございました。

●他生協が、どのようなことをされているのか想像も難しかったですが、実際見てお聞きしてそれぞれの生協の活動がよくわかりました。組合員の声を大切にする組合員のための協同組合という共通する部分に改めて気が付きました。